

問 ICT医療連携システムで医療・介護の充実を

答 救急との連携を構築し活用が展開される予定



今野善信 議員

問 気仙の医療機関、介護施設をインターネット上で情報共有し、地域住民の医療・介護を支える

取組が運用を開始した。このシステムの意義や今後の活用等について伺う。

答 市長 2市1町で共同し、国から選定を受けた「気仙広域環境未来都市構想」事業の一つで、ICTを活用した「未来かなえネット」の構築を進め運用されている。医療・介護保

健福祉の相互の情報共有を進めることは、限られた医療・福祉資源の有効活用を図るうえでも重要な意義をもつ。今年度は、気仙医療圏全ての参加希望施設への展開を完了させるとともに、救急との連携システムを構築し、訪問診療・看護・介護におけるモバイル端末やタブレット端末の試行開始、地域連携パスのICT化を目標としており、今後ますます活用が展開される予定となっている。

広域連携の推進について

問 地域課題克服のため、気仙の広域連携についてどのように考えているか。

答 統括監 財政状況が厳しさを増す中、市単独での取組には限界があると考えている。このような事態を回避するため、広域連携の推進が必須であると認識している。現在、公共施設の相互活用などに共同で取り組んでおり、広域連携が可能な事項は積極的に協調して対応するよう努めていく。



医療拠点の県立大船渡病院



砂が戻りつつある吉浜海岸

問 当市の森林・林業復活の対策は

答 森林施業の集約化による低コスト化を図る



東 堅市 議員

問 市の面積の82%を占める山林の半分は人工林である。その林は戦前・戦後に祖父や父の代

「孫子のために」と植林し、汗水流して育ててきた。それが70年、80年経って立派に育った今、木材価格が暴落したために山林所有者が施業意欲を失い、手が加えられずに荒れてきている。国では「森林再生プラン」を作って復活に力を入れているが、市では問題をど

のように捉えているか。
答 市長 間伐、更新伐の森林施業を促進するため高性能機械の利用による高効率な作業システム構築、複数の所有者の森林を取りまとめ、施業の集約化による低コスト化を図りつつ、高率な補助事業による作業道などの設置による木材搬出経費の低減化を図って森林経営意欲の喚起に努めたい。

「海水浴場」としての

吉浜海岸の再整備は

問 防潮堤は28年度完成と聞いている。先日の高波の時にはサーファの姿が見えていたが、砂も戻りつつある。海水浴場とするには様々な設備が必要になるが、再生することを考えているのか。
答 室長 農地区画整理で創設される非農用地を、駐車場やトイレ等の用地として本年度に取得予定である。換地業務の進捗状況をみながら今後のあり方や整備時期財源などの検討を進めていく。

